

『点と点は必ずつながる』

(弘前市教育委員会 教育長 吉田 健)

今年5月、36年1ヶ月勤めた県立高校を退職しました。これまでを振り返り、「点と点は必ずつながる」ということを実感しています。アップル社の創業者の一人、スティーブ・ジョブズの言葉です。「点」とは、若い頃に経験する一つ一つを指します。

ジョブズは、マッキントッシュ（通称 Mac）で知られるパソコンや iPhone の他にも、iTunes、iPod、iPad といった優れた製品を次々と発表し、パソコンやスマホが世界に広がるきっかけを作りました。その功績は大きく、間違いなく、20世紀から21世紀にかけて、世界を変えた人物の一人といえます。

最終学歴は高校卒のジョブズですが、多くの著名人を輩出し、世界大学ランキングで常にトップ3のスタンフォード大学から、卒業式のスピーチを依頼されます。そのスピーチの中で、「大学を中退した当時、どれをとっても生きていく上で、何ら役に立ちそうのないことに思えました。」という、経験談を紹介したあとに、こう語っています。

「ところが10年後、最初のマッキントッシュを設計していたとき、自分の興味の赴くままに潜り込んだ、大学の講義で得た知識が急によみがえってきたのです。そして、その知識をすべて Mac に注ぎ込みました。美しいフォントを持つ最初のコンピュータの誕生です。」更に、この話の最後をこう結びました。

「将来をあらかじめ見据えて、点と点をつなぎ合わせるなどできません。できるのは、後からつなぎ合わせるだけです。だから、我々は今やっていることが、いずれ人生のどこかでつながって、実を結ぶだろうと信じるしかありません。」

私の場合、物理教師として採用されましたが、赴任した学校の事情もあって、受け持った物理の授業は、全体の半分程でした。しかし、理科担当の指導主事になったとき、化学や生物、地学の授業経験が役立ちました。

また、高校、大学とラグビー部で活動していましたが、顧問として受け持った部活動は、サッカー、ボート、剣道、弓道、バドミントンでした。ボート部顧問のときには、生徒に恵まれ、毎年のように、インターハイや国体、東北大会、合宿生活などを経験できました。これも、ラグビー部の経験があったから、顧問に指名されたのだと思います。

勤務地の希望はずっと出身地の弘前でしたが、それが叶うのは採用から30年後のことでした。しかし、それまでの間、別の角度から弘前を感じられたことは、とても良い経験になったと思っています。赴任した

弘前中央高校定時制も、県教委で定時制・通信制教育や生涯学習を担当していたことが、選ばれた理由の一つだと思います。そして、その経験があったから、再び、弘前中央高校に勤務することにつながり、更に、今の職につながったと思います。

点と点は必ずつながる。望まなかったことも、望んだことも、うまくいかなかったことも、うまくいったことも、大切な経験としてつながり、今になって思うのは、無駄なことはないということです。